

登録コード	MA000500	開講年度	2026				
授業科目名	メンタルヘルス概論～その心理，社会，生物学的基盤～					担当教員	鷲塚 伸介
英文授業名	Mental Health Overview					副担当	篠山 大明・本田 秀夫・白井 良憲・杉山 暢宏・萩原 徹也
単位数	1	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	木曜・1時限		対象専攻 / 学年
講義室	旭総合修士講義室			授業形態	講義	授業科目区分	1 年次必修
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS26カリ(医科学)・医科，MS25カリ(医科学)・医科，MS24カリ(医科学)・医科，MS23カリ(医科学)・医科						
	【医科学】基礎医学および臨床医学に対する基本的知識、技能および技術を修得し、自主的に検討することができる。					人間のこころの動きを様々な視点から理解し多面的に説明できるようにする。	
(2)授業の概要	人間のこころの動きを認知心理学や臨床心理学，精神病理学の視点から体験できるように講義を行う。同時に「意欲」について科学的根拠や病態モデルをもとに認知心理学，臨床心理学，精神病理学の観点から講義する。						
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	医科学を学ぶための一つとして，自然科学でも特異な位置にある「こころ」を心理学，精神医学の側面から学び，理解を深める。						
(4)達成目標（個別行動目標SBOs）	基礎的な心理学を学ぶことを通じて，幼児，児童，思春期，成人，老年の各ライフステージにおける特徴と変遷についての理解を深め，研究者として生涯にわたって心身とも健康的な生活を送ることはもちろん，自身の研究活動においても有意義に活用できることを目標とする。						
(5)授業計画	4.9 鷲塚 伸介 【臨床心理学入門，心理学とライフステージ】 臨床心理学の基本的な理論と手法を学び概要を理解する。また，医療のなかにおける臨床心理学の基礎的な位置付けについて理解する。さらに，各世代における心理学的な特徴を概観し，その連続性と異同について学ぶとともに，世代間の課題について考察する。 4.16 篠山 大明 【児童期の心理学】 幼児期における心理の複雑性を学び，その将来性と可能性について正しく理解するとともに，精神分析の論理の展開を把握する。学童期における目覚ましい心理発達，大人への仲間入りの準備段階にある心理学を理解する。ここでは小学生低学年から中学生を迎える世代の心理について学ぶ。 4.23 本田 秀夫 【思春期青年期の心理学】 大人時代の直前にあたる思春期青年期の年代の心理学を学ぶ。発達期におけるもっとも不安定な世代の心理学を正しく理解することにより，現代社会における心理学上の課題や問題点について洞察を深める。 5.7 鷲塚 伸介 【成人の心理学】 心理学的に安定した時期に入った成人の世代にも，逆説的に多くの悩みと，過去への悔恨と未来への不安が複雑に錯綜する。このような成人の心理学を学び，この世代にみられる精神疾患を具体的に理解する。とくにうつ状態を具体的に取り上げることによって，メンタルヘルスについての基本的理解を深める。 5.14 白井 良憲 【分子とこころ】 「こころ」に関連するさまざまな神経伝達物質の動きが脳で実証されるようになり，分子レベルからこころを探究することが多くの分野で重要な課題となっている。ここでは中枢神経系における分子レベルの知識を通じて，心理との関連についての理解を深める。 5.21 杉山 暢宏 【精神疾患と性差】 患者の年齢と性から多くを知りうるのは臨床医学共通のことで，精神医学や心理学も例外ではない。なかでもうつ病は女性に頻度の高い疾患であり，思春期後期と閉経期に発症ピークがある。本講では性差と好発年齢に着目することによってうつ病の発症メカニズムに迫ろうとする試みを概観し，うつ病の神経内分泌学的な理解を深める。 5.28 萩原 徹也 【老人の心理学】 高齢化時代における老人の心理学を学ぶ。老年期にみる器質的な老化と加齢に伴う独特な心理を把握し，うつ病や認知症について理解を深める。 6.4 篠山大明 【メンタルヘルス概論のまとめ】 このシリーズで行われた心理学の理解を総括的に振り返るとともに，メンタルヘルス，疾病について統括的にまとめる。						
(6)授業の進め方	オムニバス方式での講義。複数の教員が，自身の専門分野と「こころ」の関連について講義を行う。						

(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	予習は特に必要としない。講義の内容を自分自身の問題として受け止め、深く考えてほしい。そのとき、必ず講義内容がそのまましっくり受け入れられない問題が自身のところの中に生じるので、それを講義中に指示した参考図書を読みこむことなどを通じて、さらに深く考察してほしい。「自身の経験に基づいて納得できた点」「違和感を感じた点」「自身の場合（講義でふれた）心理的課題をこのように克服してきた」「現在も心理的課題として未解決のままである」といった点を、講義終了後にまとめておくこと。
(8)成績評価の方法	講義終了時にレポートを課す。レポートの課題は、「（６）履修上の注意・事前事後学習の内容」で提示したことが、きちんと成されていたかが確認できるものである。これにて「可」以上の評価を得たものを合格とする。
(9)成績評価の基準	レポートにおいて、講義の概要が記載されていれば可。自身もしくは自身の周囲の人たちの体験を心理学的に考察できているか、講義の内容を自身の研究にどのように生かしていくかが記述できていれば良。それらを心理学的用語や講義で紹介した学説、知識を用いて記述できていれば優。さらにその記述が教員を感心させるレベルにあると判断されれば秀とする。成績評価は責任教員が行うが、必要に応じて各講義の担当教員と協議する場合もある。
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	鷲塚 伸介（責任者、精神医学 内線5262） 白井 良憲（分子細胞生理学 内線5157）
【テキスト，教材，参考書】	適宜プリントを配付するほか，講義で参考図書・文献を紹介する。